

石田真也
SHINYA ISHIDA

16

live out



石田真也

プロフィール

石田真也

造形作家（石田三成著）

1984年 西藏山羊生长期
1995年 为西藏种公山羊品种测定与选育

「ふくない方」をテーマに、主に福祉（不要者本位のセミナー）を運営なし、介護を研究している。

モノが生まれてから聞くならそのサイズも結構
かかることで、そこにキャラクターが生じる。

その辺のサイトに何か問題持ってるんだろうか。

西野洋輔は、訪れた土地で見つけた廃品や資源地で、人が不要となったモノを主な素材として、官能作品を制作している。

みんな繫がつてて
みんなやつば和歌山のこと好きで
一回出て戻る人もいれば
そもそも和歌山が好きで残つてゐる人
和歌山の良さつて結構そこなつて思つ
地元のこと凄く愛してゐる人が多くて
だからいいとこなんやろな（笑）
僕は大学卒業して
少ししたら戻ってきたんですよ

今まで作品とかめられ作ってないよ。今、自分で作ってたら、もう分からへんけど、強張つてんね。あんまりちゃんと見てくと、へんてこ、新聞に載つたり、NHKで取材されたり、そういうのは嫌んでくるんだね。それでね、どうせ書くなら、書くべきはちゃんとやるよ。でもまだ行つてないからだら、それかなうでたら、今何例してくるのやろうって思うから、ちょっと出合つていいだろうし。ヨリーマンになつて、人生こんなこと思つて、うまいこと言つて、作るよ。みんな思つてない。芸大行つたからこそ、作業さんを見てカッコイイなって思つて、それに憧れて作りだした。で、バスクチアの運営を真似たつていうのは、ほんまにかかったもんだけば、バカで、カッコイイ人やつたよなみた。あんな生き方あるんやつて、それで思つて、まあ英雄を押しつけられるのを防ぐべく、これに苦労してます。

いを読んで頃りで、ついで外洋のことを書いていたときに、芸大に行きたくて、それで、競争率高い、ほんまに、(笑)であります。競争率高い、ほんまに、(笑)

「んから新しもんと見らんでも、おれの人は何これ? こんなゴミヒビクするやうなのは?」みたいな感じなんですよけ、そこで僕、氣付いて。場所が変われば価値觀つて変わつてくんだよ。ソラス外でループの価値もなつて、だから海外に行く時は日本のゴミを持ちて行くよからにしていて、向こうで拾つたものは絶対持つて帰らなくてくる。それを動かすことで新たな価値觀みなが生まれると思って。

「美術家でない」とか熱く言っても
「分かった」。『僕の人生が、
この作品見て下さらない』。うそ。
せても『ほん、ほん、ほん』みたいな。
いふ極しきまつだい女の、権力にな
る。前に新しいバーナーに入つて
酒浴びた人の人生全否定された
が、めっちゃ悔しい。でも、それが
『そんな遊びつけてもいいいけ
無い』集中して何かやった方がいいよ
みたいな。知り合って「過剰の人」に
われて。それでクランソードで戻った
る。僕はうたらガミではないし、
が満ちているのが分かる。うたら神
でもうドキドキする。

「なんなら、結構、観覧の目つてあるから」と云ふ。ボーナムマークではボーナムスがバッカンの溝りいたり、「エリリ」とか、それがでて「空き缶アート」がいたりとか、ボーナムレスにあげたりとか。「これ俺うううー」「これいいんやううー?」みたいな感じで、そこは「ミュニケーション」とか生まれていった。日本やあらぢ「ん、離れて拾つたまつたのがなあいんやうすよ(笑)」まあ、そんなに意識せずに、始めに行くことは、展覧会の前からやるならあるけど、わざわざそこまでほんとでないけど(笑)。最近は「これあるよ」と人の出掛かるものが多くなってきて、今人は3回も会うじゃないですか。今まう人は3回も会うじゃないですか。ゴミも1回通じればいいんだから、それ以前、絶対ないんですよ。だから全部金額もんでも、最初に迷惑くわたらぬとからは料金割引にしておる。有料でいいじゃないですか。ゴミをわざわざまとめるっていうのは(笑)。



タイを旅行したあと
今度インドへ行つたんですよ
インドはもう一つ凄く打ちのめされたつて
もう着いた瞬間帰りたいみたいなつて（笑）
日本最高やなあつて
やっぱ海外行くと日本の良さとか知つて
日本つてどういう国なんやろうつて
考えたりとかして
京都行くと和歌山のこと
考えるとかと同じでね

子供の頃は遊びの一環で始っていた
ぐらいで、それを大事に持っていると
かはなかったりする。もちろん、ちがう
公園はちがうから、ちがう公園で遊ぶ。
紙芝居とか模型引きをしているおじさ
んもいて、毎日公園に遊びに行つて
いたんで、めちゃくちに残っているん
です。でもようやく考えたら子供から
四円とか二十円ちょっとで模型引きとか
華子を売ってたりとかして、どうやつて
ある人ら生計立てたなんやろうって、
今度に思つますけどね。それって表
現してやつてやつていうか、仕事
の扱いやつてやつてのかななど、未だに
分からぬでいけば、あてなんだなやつ
でいたんやるうなつて思うんだですよ。
そういう大人つていうが、所謂、姿な
人っていうのが、最近いてないなつて
いうの、そういう人にならなかんなんす。
子供の時つて記憶が薄やから、もよつ
と察な人とかが変なモノが街に溢れて、い
る方が絶対楽しいやうう。小学校の
んほど演習書類大事なんじゃないか
なつて、他文化を知った時に、珊瑚を鑑
する感覚みたいなのが知らず、自分を長き
にかけて、というのが自分自身を長き
にかけて、もうありますね。珊瑚されて
ナシナシって感じ。壊してください(笑)。

いう如和山の魔杖アーティストの巨匠、みたいな人がいるんですけど、その人が一枚を譲るに投げては波紋ができる。それが石を源に投げては波紋ができる。その波紋はどんどんどんどん広がって、それが茶苦茶苦ではないとならない。僕はそれを「したいのや」って言つていて、綠茶をしたいのや」と思つて。僕もそういうことをしたいたつて。ゴミを使つてそれをやつたいたいのやをもつて広げて、自分が残ることで、それがどうなるかは全く予想つかないけど、誰がの何かに届いたらいいな。そう想つたりして、彼が俺のこのシステムを見たみたいを感じて、ズボンの股下だけが震つて、「これほんがんでもう、うんでもうかね、」と云つた。これが、スゴー、「めちゃめちゃ西湖期的やなあ」と云つて、「愛さ」なんか歌はみたらいなんでもうかね、と云つたんだかもしれん。それが、もう少し大人に未だおもつてもらってる、自分分からもいることができなくなっているといひやうが、後先考えずにこれ面白いやんうて、すんなり行動に移せたんだすけど、どんど

「ヨシ」と思い方が良くならないなど、新しい言葉を作れたらいいなってずっと思っていた。やっぱ「ヨシ」って言うと先入感が入るじゃないですか。逆新感かこのモノのそのズレって後が10年半で年と作ることでどんどんほかへんなことになっていくんだよなって思ってます。どんなだけ重みを起すのやろ。これがまた脚本も含め色々ついてい



もつと日常に
アートを
違和感を
植え付けていきたい
和歌山がそういう街になつたらいいなつて
めつちや今は思っています

作品なんて元々ないと思わない
じゃないですか、例えば、日本の家で
どこに飾るって、絵やったら飾れるか、

「アーツって分からんけど、続けることが第一の目標ですね。やっぱりすっと続いている作業さんたまつて、ちゃんと重みとかもあさる」何で作ってるんだのかなんて、分からねえんだまーって言う、吉原の重み。そんだけは抜けていて、それを思うんやうつていう。あーそれでいいんやうつていう。そんだけやうつてる人でも、そんらうやうつていう、慣れていたら自ら重みが出てきて、なんとか同じこと言つても意味が変わつてくるっていうか、それがしたい。続けすることで重みを付けていた。続けるといい。もうずっとこのまま行きたい。

でも立体作品になると、もう一つのほうでよってなるんですよ。僕自身も、それが当たり前だと思って。それでもね、あった方が絶対アート作品って思われるやうと思つてゐるんだすとんだけ自己肯定がある、遠慮感があるものが、どんだけ日常にあるかっていうのが大変やなと思つて。僕の子とかがつて、それは全然ない無い世界やなあって思つてはいるんで、みんなスリーツで、同じような格好して、街には白黒が黒が、当たり前のように乗用車が走つても、全然その違和感を感じてないんやなあって、要く思ふな。」子供の頃、体験した中で、凄くなったりしないですか、それ大きくて、人になつて、思い返す事とかもあつて、僕もさうやつたんだすけで、でかい体験やなと思うんで

でアーティストっていうか、もはや分からんつまる。

僕は知名度も無いし、そんな凄い大學生も行つてないし、漫いアーティストでもないから、もう勝手に海外行つて勝手にやつて帰つてこようと思つて。たまたま学校を作らうみたいな支援をもらつたから、日本人の友達がいて、その友達と一緒に、僕は海を越えて、その時に僕も行かでつづく。僕は海を越えて、するつもりで行つたんですけど、現場行つたらそれどころじゃない。カンボジアの先生がいて、英語教えてるんですけど、自分子供たちを教えてから夕方1、2時間の底を提供してブリースターリムみたいなやつって、毎日スコールが開かるんで、よく夕方、スコールが降つたら座席を使つたところに逃げるみたいな感じが行ったったタイミングで先生たちが自費で校舎を建ててたっていう時期やつた。先生達もお金がないから住とすると材料がシロアリり寄つても安いからっていう理由でそのままのカスカスの木の柱と作つてあるらしい。「いや、ちちち」と待つて、これは絶対ちゃんとした柱じゃないと、せっかく作るんやつたらもったいないから、言つて、僕らもようと寄付して。ほんま数万ですよ、地元の大工さんと周囲の業者さんで、自分でさよ。そしたら完成したそのことを「Shinga Classroom」って名前付けてくれたんですね。そにはアンコールワットに近い場所なんだ、歴史客が迷路だらんでもいる。自分がも投資したいたまたま流れ着いた人が自分もも投資したいたまたま言つて、そこの投資したお金で壁ができて、床ができます。その隣に迷路人のクヌヌルーム

FEEL FREE

Edition

主に東京で個室的にオーディオingesされるフリーペーパー「Edition」。市井の人々の熱いライフストーリーをお届けしています。あなたの「クック」と呼ばれるお話をお聞かせください! 製作された方は「Edition」に掲載させて頂きま
す。また本紙と連絡した「Edition」公式のInstagramやYouTubeなど
WEBコンテンツを公開中です。左記QRコードよりアクセス下さいませ。

広告主募集FREE
フリーペーパーEditionに
広告を掲載しませんか? PAPER
03-5328-1700

Edition



Powered by
まちの共有、構築し
モ配広告会社



作品シリーズロンT
¥10,000 税込



作品Tシャツ
¥3,000 税込



石田延命所ロゴステッカー
¥1,000 税込



SCAN ME

2021年、和歌山県の地域文化発信事業として開催された『紀の国わかやま文化祭 2021』の一
環として、加太・友ヶ島で行われた「カダハク 2021」に於いて、恒久作品制作・展示をする芸
術家として選ばれた石田真也さん。その制作・活動支援の為に立ち上がった地元の「AND
ALL 石田延命所 SUPPORTERS」によるウェブサイトにて、石田延命所オリジナル
Tシャツやスヌッティーカーなどが購入できます。詳しくは上記QRコードよりアクセスして下さいませ。